

いざ、未来の舞台へ

〈本文〉

新しい一年の幕が開いた。

まっさらな三百六十五日。何かが生まれる予感に胸が躍る。

待ちに待ったステージが、始まるようなー。

強い目線、指先からつま先まで鍛え抜かれた体と心で、世界の人々に喜怒哀楽を伝えるダンサー三代真史さん。舞台に上がる気持ちをこう表す。

「生まれたての鳥が、巣から初めての世界へ羽ばたく瞬間の、期待と不安」

確かにみんな、そうかもしれない。

しんと静まりかえった空気。張り裂けそうな鼓動。それでも、光の当たる場所へ飛び出す。

ある人は、猛練習してきた自分を信じ、ある人は、応援してくれる家族や恋人を思いながら。

老いも若きも、うまいも下手も関係ない。

心を打つのは、力の限りを尽くしたパフォーマンスと、その後にこぼれる笑顔だ。

愛・地球博(愛知万博)も、そんな感動であふれていた。舞台に立った人、陰で支えた人、何度も世界のステージに触れた人。それぞれの心にきっと宿っている。あこがれや、未来に花開く種が。

愛知第二幕。もっと輝く舞台があなたを待っている。